

# ニッポン ドクター和の 臨終凶巻



「葬儀所の方の中にもドラゴンズファンがいらっしゃって。残念ですって悲しんでいて。守道はたいしたもんだなあ。人に残念がられるって本望じゃないですか。(中略)元氣なうちでよかつたなあ。ご遺体を見たら、幸せそうな顔をしていた。そのうち起きてくるんじゃないかなって思うくらい。(中略)眠るようになってるのは、ああいう顔をするんだなあ」

2代目Mr.ドラゴンズ、1974年には巨人の9連覇を制し、20年ぶりに中日を優勝に導いた立役者。そして90年代には

## 140 元中日監督 高木守道



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終凶巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

# いつもと変わらぬ「元氣なうちで」

ったという事ですから、突然の死だったでしょう。板東さんのコメントにある、「元氣なうちでよかつた」とは、なんとも不思議な言い回しですが、町医者として、同じように感じる場面が時々あります。特に冬場は外来通院中の患者さんが自宅で亡くなって発見されるが増えます。クリニックの診察券を見つけた警察から電話があると死体検案に駆けつけます。布団の中でただ眠っているような穏やかな顔を見て、「ああ、この人は、ご自身が死んだことにまだ気が付いてないなあ」と思いながら、手を合わます。いわゆる突然死に周囲は驚き、すぐには受け止められませんが、しかしある日突然、ふっと消えるように命が途絶える高木さんのような逝き方を、理想的と考える高齢者は少なくありません。ピンピンコロリと形容する人もいます。しかし人によっては、死への心構えが一切なく旅立つのはちよっとねえ…と思う人もいます。急性心不全は、夏よりも冬に多いことがわかっています。血圧は季節によって変動します。寒い季節は、体温の発散を防ぐために血管が収縮し血圧が上昇します。さらに忘年会や新年会でお酒を呑む機会が増えると免疫能も下がり、暴飲暴食により自律神経の働きも低下します。これらは心臓突然死のリスクになります。高血圧や糖尿病を指摘されている人はこの季節、どうか寒さ対策をお願いします。特に入浴時には脱衣場と浴室の温度差を意識して、高温や長湯を避けるなど心臓に優しい生活を心がけてください。巨人に敗れても、決して負け惜しみを言わない謙虚な方だった印象があります。死に際もさげなげなく…ダンディーなドラゴンでした。